

製品名: CDKN3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08580**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	23kDa

抗原情報

遺伝子名	CDKN3
別名	CDKN3; CDI1; CIP2; KAP; Cyclin-dependent kinase inhibitor 3; CDK2-associated dual-specificity phosphatase; Cyclin-dependent kinase interactor 1; Cyclin-dependent kinase-interacting protein 2; Kinase-associated phosphatase
遺伝子 ID	1033.0
SwissProt ID	Q16667
免疫原	抗血清はヒト CDKN3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

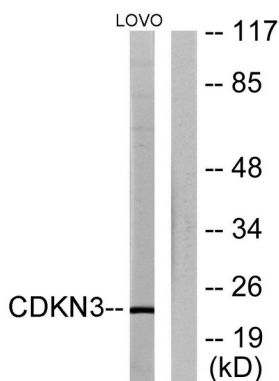
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、二重特異性タンパク質ホスファターゼファミリーに属します。サイクリン依存性キナーゼ阻害剤として同定され、CDK2 キナーゼと相互作用して脱リン酸化することで、CDK2 キナーゼの活性化を阻害することが示されています。この遺伝子は、いくつかの種類 of 癌において欠失、変異、または過剰発現することが報告されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2008 年 8 月], 触媒活性: リン酸化タンパク質 + H(2)O = タンパク質 + リン酸。触媒活性: タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。疾患: 肝細胞癌 (HCC) 患者では CDKN3 の欠陥が認められます [MIM:114550]。機能: 細胞周期の調節に参与している可能性があります。リン酸化チロシン残基またはリン酸化セリン残基のいずれかを含む基質に対して活性を持つ二重特異性ホスファターゼ。サイクリン依存的に CDK2 の Thr-160 を脱リン酸化します。誘導: 乳がん細胞および前立腺がん細胞で発現が上昇します。類似性: タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属します。サブユニット: CDC2、CDK2、CDK3 などのサイクリン依存性キナーゼと相互作用します。CDK4 とは相互作用しません。リン酸化 CDK2 (C 末端ヘリックス経路) と C 末端を介して相互作用します。MS4A3 (C 末端を介して) と相互作用し、この相互作用により CDKN3 の酵素活性が増強されます。、

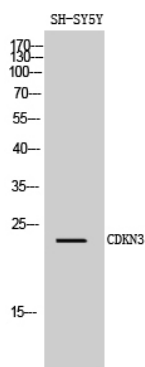
研究分野

インスリン受容体

画像データ



CDKN3 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



SH-SY5Y 細胞の CDKN3 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いたウェスタンブロット解析